

平成24年度予算要求に係る新規事業採択時評価

担当課：道路局環境安全課  
担当課長名：安藤 淳

事業の概要

事業名	地域高規格道路 金沢外環状道路 海側幹線Ⅳ期	事業区分	地方道	事業主体	石川県・金沢市
起終点	起点：石川県金沢市大河端町 終点：石川県金沢市福久町	延長	3.2 km		
事業概要	<p>金沢外環状道路は、金沢都市圏の外縁を形成する環状道路であり、国道8号より海側の海側幹線と山側の山側幹線により構成される地域高規格道路である。</p> <p>海側幹線のⅣ期区間は、既供用区間や事業区間と一体となって環状機能を発揮し、金沢都市圏の渋滞緩和及び地域活性化に大きく寄与する道路である。</p>				
事業の目的、必要性	<p>金沢外環状道路 海側幹線Ⅳ期は、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・金沢都市圏の交通渋滞の緩和ならびに交通事故の軽減</li> <li>・重点港湾金沢港へのアクセス向上</li> </ul> <p>等に資する道路である。</p>				
全体事業費	270億円	計画交通量	31,700台/日		
事業概要図					

**関係する地方公共団体等の意見**  
 金沢地区外環状道路海側幹線等整備促進協議会（会長：金沢市長）、金沢外環状道路（海側幹線）整備促進期成同盟会（会長：白山市長）及び地元住民などからの要望あり。

**学識経験者等の第三者委員会の意見**  
 -

**事業採択の前提条件**  
 便益が費用を上回っている。  
 地元自治体から早期整備の要望をうけており、円滑な事業執行の環境が整っている。

事業評価結果

費用対便益	B/C	4.8	総費用：220億円 （事業費：216億円 維持管理費：4億円）	総便益：1,048億円 （走行時間短縮便益：856億円 走行費用減少便益：126億円 交通事故減少便益：66億円）	基準年：平成23年
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=4.3 (交通量 -10%)	B/C=5.5 (交通量 +10%)	
		事業費変動	B/C=5.3 (事業費 -10%)	B/C=4.3 (事業費 +10%)	
		事業期間変動	B/C=4.9 (事業期間 -1年)	B/C=4.5 (事業期間 +1年)	
事業の影響	自動車や歩行者への影響	評価項目	評価	根拠	
		渋滞対策	◎	金沢市街地部を迂回する環状道路の一部であり、通過交通の排除や流入交通の分散により、市街地部の渋滞の緩和が見込まれる。 【渋滞損失時間の削減】 並行路線：約5,109万人時間/年 削減量：約164万人時間/年（約5,109→約4,945万人時間/年） 【その他の特徴】 主要渋滞ポイントの解消（諸江交差点）	
		事故対策	◎	金沢市街地部における通過交通の排除や流入交通の分散により、通過交通等に起因する交通事故の減少が見込まれる。 【安全性の向上（事故の減少）】 ・死傷事故率 約98.8件/億台km（現況） ※県内平均死傷事故率 71.6件/億台キロの約1.4倍	
	歩行空間	-			
	社会全体への影響	住民生活	○	第3次救急医療施設（石川県立中央病院）へのアクセス向上	
		地域経済	○	重点港湾金沢港へのアクセス向上、定時性の確保	
		災害	○	並行路線（一次緊急輸送道路）の災害等による通行規制時の代替道路を形成	
		環境	-		
	地域社会	○	県都金沢市と能登地域のアクセス向上（年間観光客入り込み数 約1,430万人）		
	事業実施環境	○	「ダブルラダー結いの道」整備構想（H19.3:石川県）に位置づけ有り。		

採択の理由

事業主体である石川県・金沢市が実施した評価結果に基づけば、費用便益比が4.8と便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件が確認できる。  
 また、交通渋滞の緩和、交通事故の軽減、金沢港へのアクセス向上など、当該事業の整備の必要性、社会全体への効果は高いと判断される。  
 以上より、本事業を平成24年度予算要求の新規事業箇所として要求する。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。